

市長記者会見記録

日時：2023年1月4日（水）14時00分～14時20分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：令和5年の年頭にあって
市政一般

<内容>

《令和5年の年頭にあって》

【市長】 明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

初めに、令和5年の年頭に当たりまして、福田市長から御挨拶がございます。それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 改めまして、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。新年の挨拶、昨年の記者会見で、2022年の漢字一字はって、再始動だとか、そういう意味での「再」という字を書きましたけれども、復活してきた取組をさらに加速させて、今年、市制始まってから99年目、100周年をまたいでいく年になると思ひますので、本当に大きな変化がある年だなというのをもう予感しております。

川崎をつくってきたJFEスチールの高炉休止という、いわゆる産業の大転換が起るわけで、これを炭素で生きてきたまちがどう脱炭素のものづくりのまちに変化するかという真価が問われる、そんなチャレンジな年になるかと思ひますし、コロナ禍で相当傷んだ地域社会を、ビルド・バック・ベターじゃないですけれども、コロナ禍よりもいい地域社会をつくる、地域福祉を住民の皆さんとつくり上げていく、そういう意味でもビルド・バック・ベターという形、よりよい復興をしていく、そういうチャレンジな年になるかと思ひておりますし、また、脱炭素化に向けての話で言えば、地域エネルギー会社を立ち上げていくという、そういう年にもなりますし、プラリサイクルの取組もそういうことでもあります。

それから、産業面で見ると、やはり昨年末に国から採択を受けた量子イノベーションの取組、こんな取組がまさに新しい産業を川崎から生み出すような、そんなチャレンジは今年からいよいよ本格化して動いていくと思ひますので、産業面でも、地域での様々な課題というものにも、すごく大きな、激動の変化のある100年またぎの年になるかなと思ひておりますので、議会の皆さんはもとよりでありますけれども、市

民の皆さんとしっかりと、去年復活してきた対話というものを、今年もさらに外に出て、いろんなお話を、市役所の職員ともいろんな意見交換を率直にしていきたいと思えますし、ましてや住民の皆さんとしっかりと取り組んでいきたいと思っています。そんな1年にしていきたいなと思って、明るくやっていきたいと思っています。

《市政一般》

【司会】 それでは、市政一般に関する質疑応答に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしく願いをいたします。

《新型コロナウイルスについて》

【神奈川】 幹事社の神奈川新聞です。今年もよろしくお願いします。先ほど、コロナ前よりもいい地域社会をつくるというお話でしたけれども、具体的にどのように取り組んでいかれるのか教えてください。

【市長】 互助の取組というのを、これまで地域包括ケアシステムというので進めてきましたけれども、地域づくりという意味では、まだ道半ばなところが多分にあります。この3年間、大分止まってしまった部分もあるので、そういった意味では、必ずしも全部止まったとは思ってなくて、地道な活動を続けていた人たちをもう一回再統合していくということになると思います。

今年のキーワードは、1つは、連携という言葉と統合ということだと思っていて、それぞれのプレーヤーが持っている情報だとか人脈だとかというものを、ただ連携するというよりも、それを本当に重ね合わせて統合化して、全体はしっかりと見ていくということになると思うので、そういう意味では、地域包括ケアシステムの取組も、いよいよ2025年のターゲットが見えてきている中で、さらに進化させていかなくちゃいけないと思っています。

今日、特別職の会議をやったんですけれども、こういったところに、私もそうですし、各特別職、外に出て、いろんな対話を、ディスカッションを重ねていこうという話もしました。かつ、長年課題になっていて、なかなか解決できていない問題も多々あるので、そういったことについても果敢に挑戦していこうという話をいたしました。具体的な話はいろいろあったんですけれども、割愛しますけれども、そういう話です。

【神奈川】 長年の課題というのを教えていただければ。

【市長】 あまり具体的に言うと問題があるかもしれませんが、課題だなと思っていたことって本当にいっぱいあって、あまりここで言うとあれなので、もろもろということで御理解いただきたいと思います。

《防衛費増額に伴う増税について》

【神奈川】 ありがとうございます。話は変わりますけれども、防衛増税に関してで、多くの産業を抱える川崎市にとって、増税に関して法人税の話も出ていますけれども、何か御懸念される点はありますでしょうか。

【市長】 これは防衛増税の話だけではないんですが、取れるところから取るみたいなことは本当にやめていただきたいと思います。取りやすいところから取るとか。税のあるべき姿をしっかりと正面から議論してもらいたいと思っています。ふるさと納税もそうですし、あらゆる税制において本当にそうなのかと。地方交付税の話にしてもそうですし、国も地方もお金がない時代だということは十分に分かっているので、市民、国民の皆さんって、その大変さは理解していると思うんですよね。ただ、そこに公正さがあるかということに、ある意味不満があるのではないかと僕は思っています。正しい説明と、こういうことだからこういう形で負担しましょうという丁寧な説明がない中で額だけの議論がされているみたいな話は決してよくないし、将来に禍根を残すし、ひいては、この説明を怠ると納税意識は低下すると思いますし、政府、自治体に対する信頼感もなくなるという超悪循環に陥ると思っていますので、そこは防衛増税だけに関わりませんが、これは大きな話だと思いますので、ぜひその辺りの議論を大上段の真正面の議論をしていただきたいということを思っています。

《市長のTwitterについて》

【神奈川】 ありがとうございます。最後に、がらっと話が変わるんですけども、去年の1月1日からツイッターを始められて、ちょうど1年になると思うんですけども、手応えといいますか、反響と、あと、たしか9月、安倍元首相の銃撃に関する書き込み以降は更新されていないんじゃないかなと思うんですけども、何か理由があり……、あっ、されています？

【市長】 フェイスブックですか。

【神奈川】 ツイッターの。

【市長】 僕、ツイッターで安倍総理のことをツイートしましたっけ。

【神奈川】 されていませんか。ごめんなさい。私の勘違いですか。

【市長】 多分ツイートはしてないような気がするんですよね。してないですね。

【神奈川】 じゃ、今も更新されているんですか。

【市長】 どうだったか。ツイッターのほうですか。

【神奈川】 ツイッターです。

【市長】 ツイッターはほぼ更新しておりませんね。

【神奈川】 そうですよ。されてない理由もあれば、お願いします。

【市長】 ツイッターってなかなか難しいなというものを感じています。だから、どういう使い方がいいのかなどというのを思って、たしか去年、始めてから、地震だとか停電だとかという、あるいは、何かの危機対応のときに少しツイートしたと思うんですけども、そういう使い方ってありだなと思った反面、どういうのがツイッターになじむのかというのは非常に迷いもありました。大分いろんなコメントをいただくので、これって本当に意味があるんだろうかと思うような、特定のところから、あまり関係のない投稿みたいのもされてしまって、もう見るだけでという、になってしまうということから言えば、ツイッターに慣れている人からすれば、そんなの気にしなくていいよと言うんでしょうけれども、やる側としてはなかなか難しいなと思って、何となく控えちゃっている部分がありますね。だけど、非常時みたいなときは、直接発信できるのはすごい利点だと思っていて、そんなときに活用するのがいいのかなど思っていたりもします。

【神奈川】 ありがとうございます。

【市長】 すみません、雑談じみた言い方で。

《特別市について》

【t v k】 幹事社のt v kです。今年もよろしくお願いします。コロナについてお伺いしたいんですけども、年末には県では重症化の増大期というレベル上げがされましたけれども、川崎市内においては、年末年始の感染者の推移を市長がどう見られるかというところと、もう1点、今年1年で、去年と比べて、コロナへの向き合い方、こういうふうに変えていくとか、どういうふうにつき合っていくというところ、今、お考えがあればお伺いしたいんですけども。

【市長】 年末年始の医療機関、大きな救急を扱っているところの一部医療機関で入院の新規受入れを中止した部分もあって、そういった意味では、私どもの市立病院も含めて、そのところに少し負荷がかかったということもございました。入院調整も若干必要などころもありましたけれども、それほど大きな混乱はなかったと思っています。

発熱外来ですが、休日急患のところはやはり混んでいたということでもありますけれども、それも大きな混乱はなかったという報告を受けていると思っております。本当に医師会の皆さんをはじめ、地域の医療機関の皆さん、病院の皆さんに感謝申し上げます。今日もモニタリングのことを岡部所長なんかともお話をしたんですけども、若干フラットになってきている、あるいは若干下がりぎみだというものもあるんですが、ただ、年末年始での検体数なのかどうかはまだ計り知れないところ

があるので、明日以降の数字を少し注視していきたいと思っています。

全国の都道府県の推移を見ると、かなり地域差が出てきているので、その辺りはしっかり見ていかなくちやいけないなと思っていますが、病床は、おかげさまでというか、重症者というところでは比較的少なく抑えられてきていますが、これはコロナに限らず、冬場はかなり救急搬送件数も増えるし、コロナ以外の疾病が非常に多い時期ですので、そういうものを足していくと、かなり医療負荷は高い状況にあると認識しています。引き続き、地域の病院などとしっかり連携を組んで情報共有していきたいと思っています。

これからコロナに対してどうかということですが、引き続き付き合っていくしかないと思っています。ワクチン接種も進んでいますが、引き続き若年層の皆さんにワクチンを打っていただきたいという働きかけはしていきますのと、どううまく付き合っていくかを考えていかなくちやいけないので、ずっと言ってきた話ですが、正しく感染対策をやりながら生活を戻していくことにしていかなければならないと思っていますので、昨年未来取り組んでいるような、感染状況を見ながらありますけれども、ふだんに戻していくということを徐々に挑戦していかなければならないと思っています。

【 t v k 】 ありがとうございます。

《統一地方選挙について》

【 t v k 】 テレビ神奈川です。市制100周年を迎える中で、福田市長としては、特別自治市の取組についても大きく前進をさせていく年になると思います。指定都市市長会の中でもかなり大きな存在感を求められていくと思うんですが、どういうふうに取り組んでいきたいと、改めていかがでしょうか。

【市長】 市民の皆さん、各界各層への出前講座をはじめ、あらゆる機会を通じて、特別市の必要性というものをしっかりと普及啓発をさせていただきたいと思っていますのと、やはり法律改正が必要な事項ですから、国会議員の皆さんへの働きかけ、各政党への働きかけ、それと、全国レベルの経済団体を含めて、やはり地方創生ということがしっかりと言われています。この地方創生をしていくためにも、多極分散型な日本の成長をこの特別市がしっかりと担えるということを経済界の皆さんにも、私、しっかりと訴えていく必要があると思いますし、私、担当の市長でありますので、そこの辺りは今年しっかりと働きかけを行っていききたいと思っています。ですから、国政レベルと、それぞれのローカルな部分という両面でしっかりと働きかけていく。それと、今年選挙イヤーでありますから、このことをしっかりと主張していただくところをし

っかり応援していくという、そういった活動も政治家の福田紀彦としてはやっていきたいとは思っています。

【t v k】 選挙イヤーというお話ですけれども、神奈川でも知事選があります。県との関係性、県との協力というところも大きな部分になってくると思うんですが、年末には黒岩知事も4選の出馬を表明されました。県との関わり方、争点になり得るのかどうか、それから、黒岩さんの4選出馬に向けた所感もお伺いできればと思います。

【市長】 まず、県との関わり方というのは、やはり今回の選挙戦を通じて大事なことだと思っています。市内選出の県会議員の皆さんが、特別市についてどういう考え方をお持ちなのかということは当然問われるべきだと思っていますし、市民の皆さんにもそれは関心を持っていただく必要があるかと思っています。ぜひその辺りの論戦を期待したいなと思っていますし、こちらからも働きかけをしていきたいと思っています。

それから、県知事を含めた県行政に対してでありますけれども、特別市に関して共通認識を持っていただくことが必要だと思っていますので、引き続きの働きかけと、私たちが求めている情報、データみたいなものがありますので、それをしっかりと御提供いただくことはぜひ御協力をいただきたい、それはお願いしたいと思っています。

あと、県知事の出馬についての所感は、コメントしづらいですけれども、出馬、よかったですねとか悪かったですねとかという話でもないものであれなんですけれども、ぜひ、この辺りの特別市の考え方とか、政令市、一般市町村と県との関わり方が非常にクローズアップされると思います。その辺りが大きな論争、議論を巻き起こす大事な選挙なんじゃないかなと思います。

それは、黒岩知事がやられるにしても、今後の4年間は、やはり県の在り方が非常に問われると思うんです。人口の配分も非常にいびつな形になっていますし、私どものような特別市を目指したいと言っているところと、県の補完機能を非常に必要としているところと非常に大きな違いがある中で、県としての役割をどう担っていくのかということは、とても大きな話だと思っています。ぜひその辺りが議論になるといいなと思っていますし、そういうふうになるように私からも求めていきたいとは思っています。

【t v k】 黒岩さんの出馬を受けて、じゃ、福田さん自身が県知事にというお話は特になさそうという……。

【市長】 ないです。

【t v k】 ありがとうございます。

【神奈川】 幹事社からは以上です。各社、お願いします。

【司会】 いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355